



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月4日

上場取引所 東

上場会社名 クラボウ(倉敷紡績株式会社)  
コード番号 3106 URL <http://www.kurabo.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 藤田 晴哉

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 藤井 裕詞

TEL 06-6266-5136

四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	127,103	3.8	2,789	61.5	3,137	9.7	1,989	132.0
27年3月期第3四半期	122,448	0.9	1,727	16.7	2,859	74.3	857	101.7

(注)包括利益 28年3月期第3四半期 △112百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 5,051百万円 (48.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	8.63	—
27年3月期第3四半期	3.72	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	195,457	94,332	46.4
27年3月期	195,754	95,909	46.9

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 90,600百万円 27年3月期 91,844百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,000	1.5	4,500	64.1	4,700	24.9	2,800	144.1	12.14

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(2)「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期3Q	246,939,284 株	27年3月期	246,939,284 株
② 期末自己株式数	16,295,062 株	27年3月期	16,280,438 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	230,651,357 株	27年3月期3Q	230,674,545 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日～平成27年12月31日）におけるわが国経済は、企業収益と雇用・所得の改善を背景に、設備投資や個人消費は堅調に推移するなど、景気は緩やかな回復基調が続きましたが、一部には中国をはじめとする新興国の景気減速の影響が見られました。

このような環境下にあつて当社グループは、中期経営計画「Future'15」の基本方針である「海外戦略の充実」のもと、引き続き成長分野・新規市場の開拓と深耕、生産・販売拠点の拡充と再構築、新商品・新技術の開発等に注力しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,271億円（前年同期比3.8%増）、営業利益は27億8千万円（同61.5%増）、経常利益は31億3千万円（同9.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億8千万円（同132.0%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、前連結会計年度の期末から、「その他の事業」に含めていた「食品事業」を区分表示することとしております。また、「その他の事業」に属していた㈱マスティ倉敷は、当第3四半期連結会計期間において、「不動産活用事業」に属している㈱倉敷アイビースクエアを存続会社として合併しました。これに伴い、「その他の事業」に含めていた㈱マスティ倉敷の事業を当第3四半期連結会計期間より「不動産活用事業」に含めて表示しております。

なお、前第3四半期連結累計期間との比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

#### (繊維事業)

原糸分野は、国内外の連携によるグローバルな生産・販売により好調に推移しました。また、デニム分野も付加価値素材が順調でした。

一方、ユニフォーム分野及びカジュアル分野は、円安による輸入コストの増加などからきびしい状況が続きました。

海外子会社におきましては、ブラジルは市況低迷などにより低調でしたが、東南アジアは受注が回復し、堅調に推移しました。

この結果、売上高は664億円（前年同期比0.6%増）、営業利益は8億9千万円（同52.4%増）となりました。

#### (化成品事業)

自動車内装材向け軟質ウレタンフォームは、国内の自動車の生産台数が減少するなどきびしい状況が続きました。また、中国やブラジルの子会社におきましても景気減速の影響などにより業績が低迷しました。

機能フィルム分野は、文具向け製品などが堅調に推移しましたが、住宅建材分野は、新設住宅着工戸数が低水準であったことなどにより低調でした。

この結果、売上高は355億円（前年同期比0.2%増）、営業損失は9百万円（前年同期は営業損失4千万円）となりました。

#### (不動産活用事業)

不動産活用事業は、賃貸事業の推進に注力した結果、売上高は57億円（前年同期比1.2%増）、営業利益は25億1千万円（同2.2%増）となりました。

#### (工作機械事業)

主力の横中ぐりフライス盤は、国内販売は好調に推移しました。また、海外は、米国向けが順調に推移したものの、韓国を中心にアジア向けが低調でした。

この結果、売上高は58億円（前年同期比20.0%増）、営業利益は3億1千万円（同13.7%減）となりました。

#### (エレクトロニクス事業)

飲料容器の検査装置やシート検査装置は、堅調に推移しました。また、子会社における半導体洗浄関連装置は大型案件もあり好調でした。

この結果、売上高は38億円（前年同期比16.4%増）、営業利益は2億7千万円（前年同期は営業損失1億1千万円）となりました。

(食品事業)

即席めん具材が堅調に推移し、スープ市場向け及び製菓向け製品も好調でした。

この結果、売上高は52億円(前年同期比16.0%増)、営業利益は5億2千万円(同17.5%増)となりました。

(その他の事業)

エンジニアリング事業は、全般に売上規模は拡大しましたが、工事費用の増加により利益面ではきびしい状況が続きました。

バイオメディカル事業は、海外向けの核酸自動分離装置が堅調でした。

この結果、その他の事業の売上高は43億円(前年同期比76.8%増)、営業損失は3億9千万円(前年同期は営業損失5億円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、現金及び預金は増加しましたが、売上債権や有形固定資産が減少したことなどにより、1,954億円と前連結会計年度末に比べ2億円減少しました。

負債は、長期借入金は減少しましたが、短期借入金が増加したことなどにより、1,011億円と前連結会計年度末に比べ12億円増加しました。

純資産は、利益剰余金は増加しましたが、為替換算調整勘定やその他有価証券評価差額金が減少したことなどにより、943億円と前連結会計年度末に比べ15億円減少しました。

以上の結果、自己資本比率は0.5ポイント低下して46.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年12月15日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益(損失)に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,232	22,599
受取手形及び売掛金	42,714	39,787
有価証券	1	1
商品及び製品	13,454	13,789
仕掛品	8,579	10,028
原材料及び貯蔵品	5,134	4,745
その他	5,771	5,117
貸倒引当金	△300	△290
流動資産合計	93,587	95,777
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	25,855	24,657
その他(純額)	28,223	28,046
有形固定資産合計	54,078	52,704
無形固定資産		
	1,034	933
投資その他の資産		
投資有価証券	42,526	41,703
その他	5,601	5,156
貸倒引当金	△1,074	△818
投資その他の資産合計	47,053	46,041
固定資産合計	102,167	99,680
資産合計	195,754	195,457
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,874	24,273
短期借入金	26,674	29,459
未払法人税等	1,155	567
賞与引当金	1,338	765
事業構造改善引当金	46	—
その他	11,093	12,414
流動負債合計	64,183	67,480
固定負債		
長期借入金	3,804	2,554
役員退職慰労引当金	189	168
退職給付に係る負債	11,381	11,398
その他	20,286	19,522
固定負債合計	35,661	33,644
負債合計	99,844	101,124

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	22,040	22,040
資本剰余金	18,207	18,207
利益剰余金	47,090	47,889
自己株式	△2,974	△2,977
株主資本合計	84,363	85,159
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,926	14,553
繰延ヘッジ損益	208	△5
為替換算調整勘定	△6,394	△8,016
退職給付に係る調整累計額	△1,259	△1,090
その他の包括利益累計額合計	7,480	5,441
非支配株主持分	4,064	3,732
純資産合計	95,909	94,332
負債純資産合計	195,754	195,457

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	122,448	127,103
売上原価	104,241	107,671
売上総利益	18,206	19,432
販売費及び一般管理費	16,479	16,642
営業利益	1,727	2,789
営業外収益		
受取利息	86	109
受取配当金	680	706
持分法による投資利益	24	27
その他	997	396
営業外収益合計	1,789	1,240
営業外費用		
支払利息	347	388
特別調査費用	—	212
その他	309	290
営業外費用合計	656	892
経常利益	2,859	3,137
特別利益		
投資有価証券売却益	—	21
関係会社清算益	41	—
固定資産売却益	20	—
特別利益合計	62	21
特別損失		
事務所移転費用	17	0
貸倒引当金繰入額	764	—
厚生年金基金解散損失	136	—
固定資産処分損	115	—
特別損失合計	1,033	0
税金等調整前四半期純利益	1,888	3,158
法人税等	944	1,077
四半期純利益	943	2,081
非支配株主に帰属する四半期純利益	86	91
親会社株主に帰属する四半期純利益	857	1,989



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	943	2,081
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,234	△373
繰延ヘッジ損益	312	△213
為替換算調整勘定	420	△2,020
退職給付に係る調整額	114	168
持分法適用会社に対する持分相当額	26	△54
その他の包括利益合計	4,107	△2,493
四半期包括利益	5,051	△412
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,810	△137
非支配株主に係る四半期包括利益	241	△274

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他の 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	繊維事業	化成品 事業	不動産 活用事業	工作機械 事業	エレクト ロニクス 事業	食品事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	66,057	35,513	5,642	4,911	3,347	4,508	119,980	2,468	122,448	-	122,448
セグメント間の内部売上高又は振替高	17	30	112	3	6	0	171	144	315	△315	-
計	66,075	35,543	5,754	4,915	3,353	4,509	120,151	2,612	122,763	△315	122,448
セグメント利益又は損失(△)	588	△45	2,466	369	△116	449	3,712	△505	3,207	△1,479	1,727

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング事業、バイオメディカル事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,479百万円には、全社費用△1,483百万円及びその他の調整額4百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							その他の 事業 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	繊維事業	化成品 事業	不動産 活用事業	工作機械 事業	エレクト ロニクス 事業	食品事業	計				
売上高											
外部顧客への売上高	66,436	35,571	5,709	5,894	3,895	5,231	122,739	4,364	127,103	-	127,103
セグメント間の内部売上高又は振替高	35	832	119	0	2	0	990	61	1,052	△1,052	-
計	66,471	36,404	5,828	5,894	3,897	5,232	123,730	4,426	128,156	△1,052	127,103
セグメント利益又は損失(△)	897	△9	2,519	318	275	527	4,529	△394	4,134	△1,344	2,789

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、エンジニアリング事業、バイオメディカル事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,344百万円には、全社費用△1,347百万円及びその他の調整額3百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない研究開発費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度の期末から、「その他の事業」に含まれていた「食品事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また、「その他の事業」に属していた(株)マスティ倉敷は、当第3四半期連結会計期間において、「不動産活用事業」に属している(株)倉敷アイビースクエアを存続会社として合併しました。これに伴い、「その他の事業」に含めていた(株)マスティ倉敷の事業を当第3四半期連結会計期間より「不動産活用事業」に含めて表示しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを開示しております。